

産 科 学

【単位数：1単位，授業16コマ，予備4コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

渡辺員支 教授(産婦人科学)

2 教育目標

(1) ねらい(I-7-b, I-8-b, III-3-b, III-4-b, III-5-b)

- ① コンピテンスである“医学知識と科学的探究心”の理解ができるようになるため，産科医療に必要な知識，技能，態度を学び，そのことによって医学生としての“プロフェッショナリズム”を身につける。
- ② 妊娠，分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識とともに，母子保健，生殖医療のあり方を学ぶ。

(2) 学修目標

- ① 女性生殖内性器の発生と形態異常を説明できる。
- ② 正常妊娠・分娩・産褥経過を説明できる。
- ③ 妊娠・分娩・産褥での母体の解剖学的と生理学的変化を説明できる。
- ④ 異常妊娠・異常分娩・異常産褥の病態を説明できる。
- ⑤ 正常分娩や異常分娩の対応(鉗子分娩，帝王切開など)を説明できる。
- ⑥ 産科救急(産科出血，播種性血管内凝固<DIC>)の病態と治療を説明できる。
- ⑦ 主な合併症妊娠の病態を説明できる。
- ⑧ 母子保健の意義を医学的に説明できる。
- ⑨ 妊娠時の薬物療法の注意点を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	90%	多肢選択問題を原則とする。
小テスト	○	10%	アクティブ・ラーニングにおいて，小テストを行う。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正解率が著しく不良な問題は，その領域に関連する簡単な解説をAIDLE-Kに公開する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
配付資料をAIDLE-Kに収載			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
標準産科婦人科学	岡井 崇 綾部琢哉 編	医学書院	基本から最新の膨大な情報が有機的に統合されている。
NEWエッセンシャル 産科学・婦人学	池ノ上克, 鈴木秋悦	医歯薬出版	医学生に必須の最新知識を取り入れている。
ウィリアムズ産科学 原著25版	岡本愛光 監修	南山堂	1世紀以上の間、世界で最も詳しく、かつ権威ある産科学の臨床テキストとして読み継がれてきた『Williams OBSTETRICS』の翻訳版。周産期領域のバイブル。
https://www.uptodate.com		UpToDate	院内HPからアクセスして最新情報を入手できる。

6 準備学習（予習・復習）

- ① 講義前に事前配付，又はAIDLE-Kにアップされた講義資料に目を通して講義に参加し（約1時間），講義終了後は，内容を再確認して次の講義に臨むこと。
- ② 参考図書を利用し，授業で触れられなかった内容についても理解すること。理解できない点があれば，オフィスアワーなどを利用して質問し，理解すること。
- ③ アクティブ・ラーニングは，事前に配付又はAIDLE-Kにアップされた資料に目を通し，疑問点を参考図書などで調べた上で臨むこと。

7 授業計画

（1） 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義である。
アクティブ・ラーニングを導入する。

（2） 講義の内容

コアカリキュラムに基づき，正常及び異常な妊娠・分娩・産褥の経過，主な合併症妊娠，産科手術，産科救急及び妊娠時の薬物療法の注意点について具体的な内容を提示しながら，概念理解を進めていく。
アクティブ・ラーニングは，小グループに分け，産科に関するシナリオに基づき質疑応答を行う。
生物学1コマ，母子保健1コマ，病理学1コマを予定している。